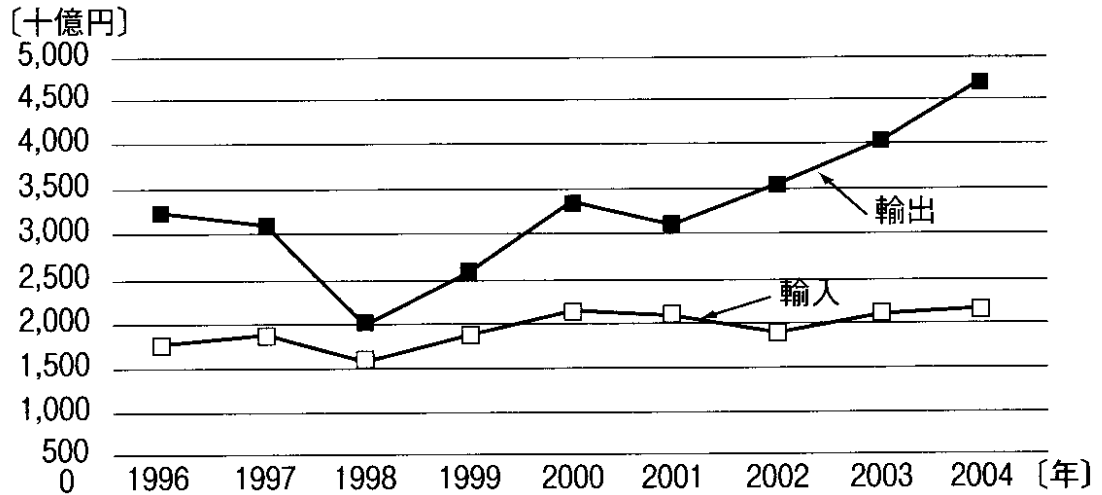
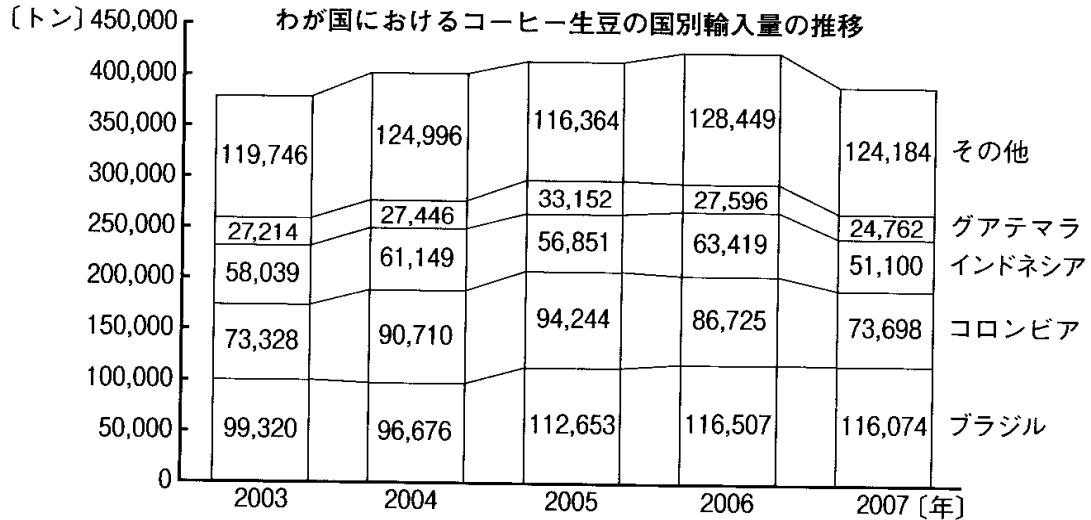


【問1】 図は、わが国のある国に対する輸出入額の推移を示したものであるがこの図から
 確実にいえるのはどれか。 【国Ⅱ18年度】 352_1



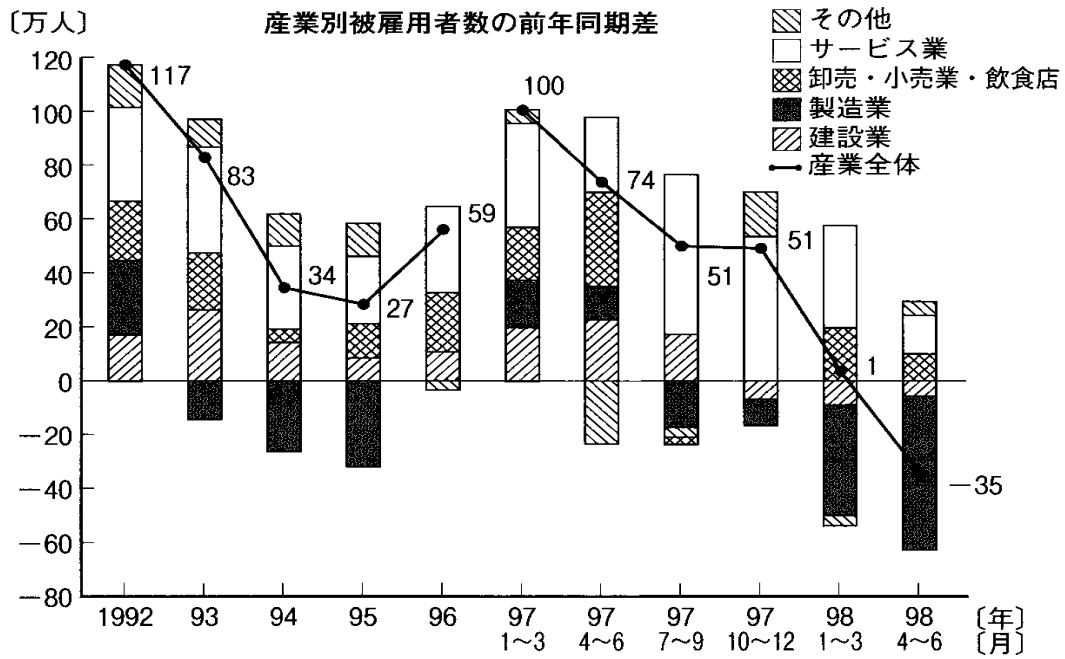
- 1 1996～2004年の間で輸出額と輸入額の差が1兆5千億円を超えた年は5回ある。
- 2 1998年における輸出額の対前年減少率は、30%より小さい。
- 3 1998年における輸出額と輸入額の差は、2004年におけるその5分の1よりも多い。
- 4 1998年における輸入額の対前年減少率は、2001年における輸出額のそれよりも大きい。
- 5 1998年以降、輸出額と輸入額の差が年々広がっており、2004年には、その差額が輸入額を上回った。

【問2】 わが国におけるコーヒー生豆の国別輸入量に関して、次の図から正しくいえるのはどれか。 【地上21年度】 353_3



- 2003年におけるインドネシアおよびグアテマラからの輸入量の計を100としたとき、2006年におけるインドネシアおよびグアテマラからの輸入量の計の指数は105を上回っている。
- 2004年から2006年までの各年についてみると、ブラジルからの輸入量に対する、コロンビアおよびインドネシアからの輸入量の計の比率は、いずれの年も1.3を上回っている。
- 2004年から2007年までの輸入量の累計について国別にみると、ブラジルはコロンビアを10万トン以上、上回っている。
- 2005年における輸入量の対前年増加率を国別にみると、最も大きいのはブラジルであり、次に大きいのはグアテマラである。
- 2005年のわが国の輸入量の合計に対する2007年のわが国の輸入量の合計の割合は、90%を下回っている。

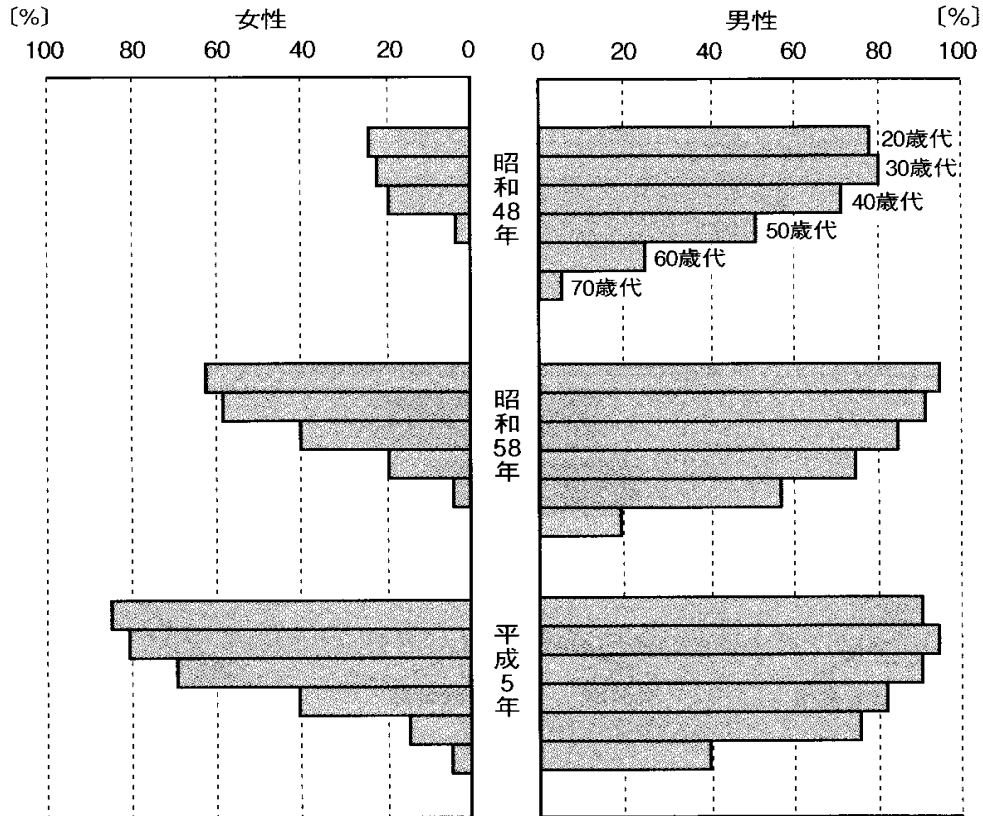
【問3】 図は被雇用者数の前年同期差を産業別に表したものである。この図からいえることはどれか。 【国税11年度】355_5



表中の数字は、産業全体の値を示したものである。

- 1 1998年1~3月期の被雇用者総数は前年同期より1万人増加しているが、1997年10~12月期より50万人減少している。
- 2 製造業の被雇用者数は1993年以降減少を続けている一方で、サービス業のそれは一貫して増加している。
- 3 1997年の7~9月期と10~12月期の被雇用者総数の前年同期差は同じであるので、被雇用者総数も同じである。
- 4 建設業の被雇用者数は、前年同期差が1997年10~12月期に減少に転じるまで増加を続け、1997年だけで約30万人増加している。
- 5 1996年の被雇用者総数は、1993年のそれより120万人増加している。

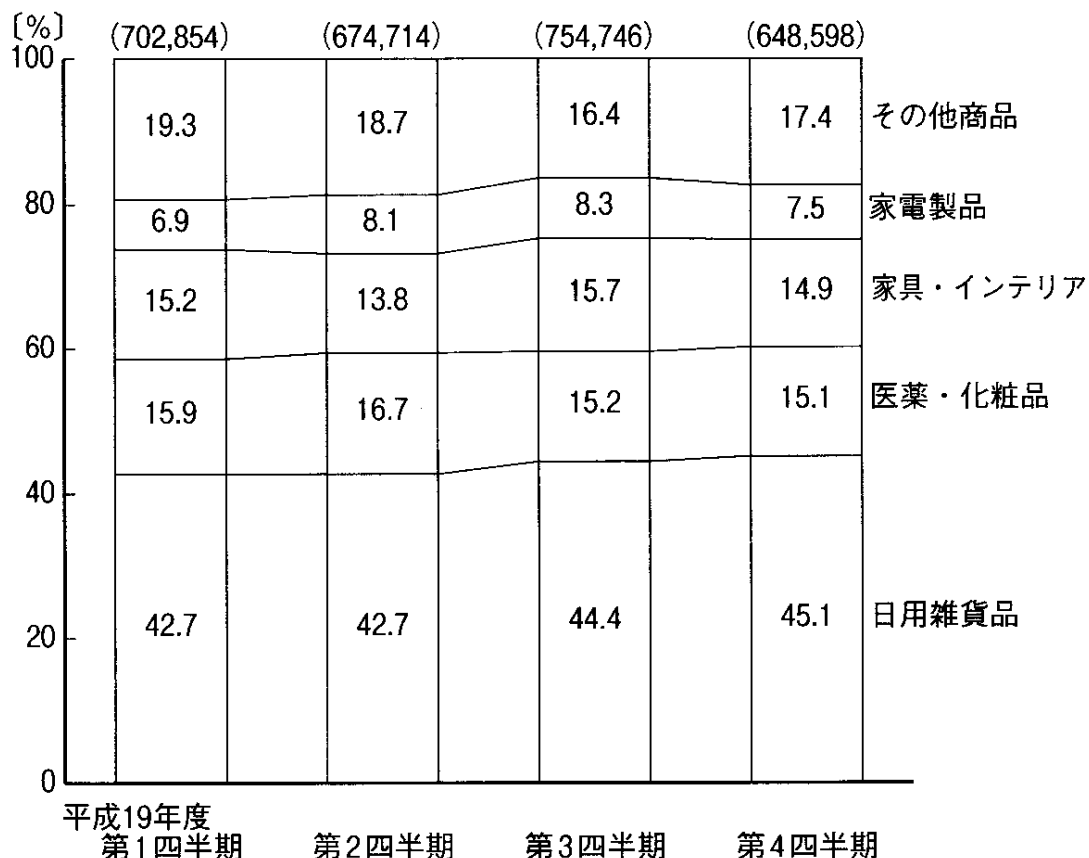
【問4】 図はある都市の自動車運転免許の保有率を年齢階層別に示したもののだが、これからいえることとして妥当なのはどれか。 【国Ⅱ種8年度】 379_4



- 1 昭和48年の20歳代の男女全体で見ると、保有率はおおむね約50%台半ばである。
- 2 昭和58年の女性の20歳代と30歳代の保有者数を合計すると、女性の保有者全体の半分以上を占めている。
- 3 男性について平成5年を昭和58年と比べると、20歳代～40歳代の保有者の増加数の合計よりも、60歳代と70歳代の保有者の増加数の合計のほうが大きい。
- 4 女性の場合いずれの年においても、20歳代の保有率はほかの年代の保有率よりも高い。
- 5 いずれの年のいずれの年齢階層においても、男性の保有者数が女性の保有者数を上回っている。

【問5】 チェーンストアにおける住関連品の平成19年度の品目別販売額に関して、次の図から正しくいえるのはどれか。 【地上21年度】385_10

チェーンストアにおける住関連品の品目別販売額の構成比の推移

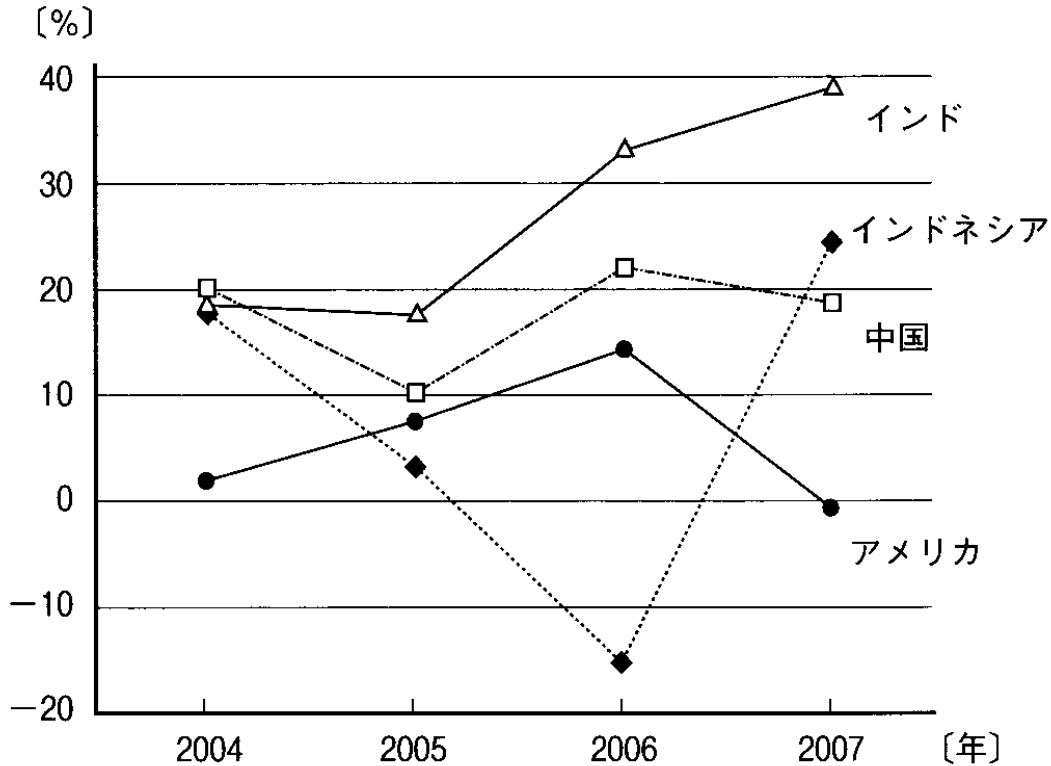


[注] () 内の数値は、住関連品の品目別販売額の合計〔単位：百万円〕を示す。

- 日用品の販売額についてみると、第1四半期から第4四半期までのうち、最も多いのは第4四半期であり、次に多いのは第3四半期である。
- 医薬・化粧品の販売額についてみると、第2四半期に対する第4四半期の比率は、0.8を下回っている。
- 第1四半期から第3四半期までの家具・インテリアの販売額の累計は、3千億円を下回っている。
- 第1四半期における家電製品の販売額を100としたとき、第3四半期における家電製品の販売額の指数は120を上回っている。
- 第2四半期から第4四半期までの各四半期における日用品と医薬・化粧品との販売額の計は、いずれの四半期も直前の四半期に比べて増加している。

【問6】 インドほか3か国へのわが国の輸出額に関して、次の図から正しくいえるのはどれか。 【地上22年度】408_1

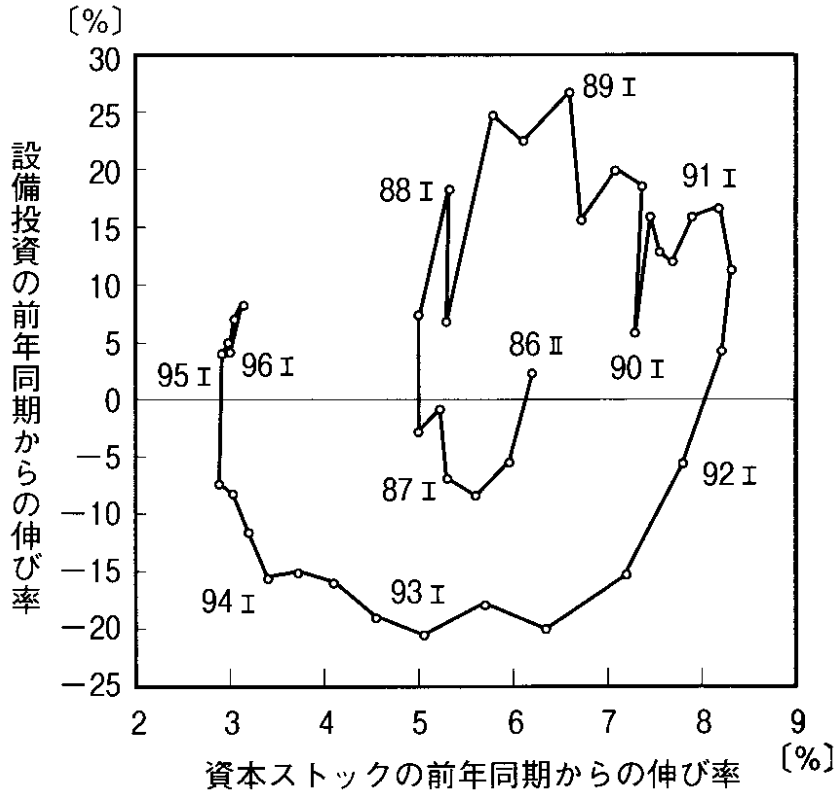
インドほか3か国へのわが国の輸出額の対前年増加率の推移



- 2004年におけるインドへの輸出額を100としたとき、2007年におけるインドへの輸出額の指数は200を上回っている。
- 2004年におけるインドネシアへの輸出額の対前年増加額は、2007年におけるインドネシアへの輸出額の対前年増加額を上回っている。
- 2004年から2007年までの各年のアメリカへの輸出額についてみると、最も多いのは2006年であり、最も少ないのは2007年である。
- 2005年から2007年までのうち、中国への輸出額が前年に比べて増加した年は、いずれの年もアメリカへの輸出額は前年に比べて増加している。
- 2005年から2007年までの3か年における、中国への輸出額の1年当たりの平均は、2004年における中国への輸出額を下回っている。

【問 7】 1996 年までの製造業の設備投資と資本ストックの前年同期からの伸び率を表したものである。図から確実にいえるのはどれか。ただし、図中「86 II」とは 1986 年の第 2 期をいい、また、各年は第 1 期から第 4 期までの 4 つの時期に区分されているものとする。

【国税 10 年度】 418_8

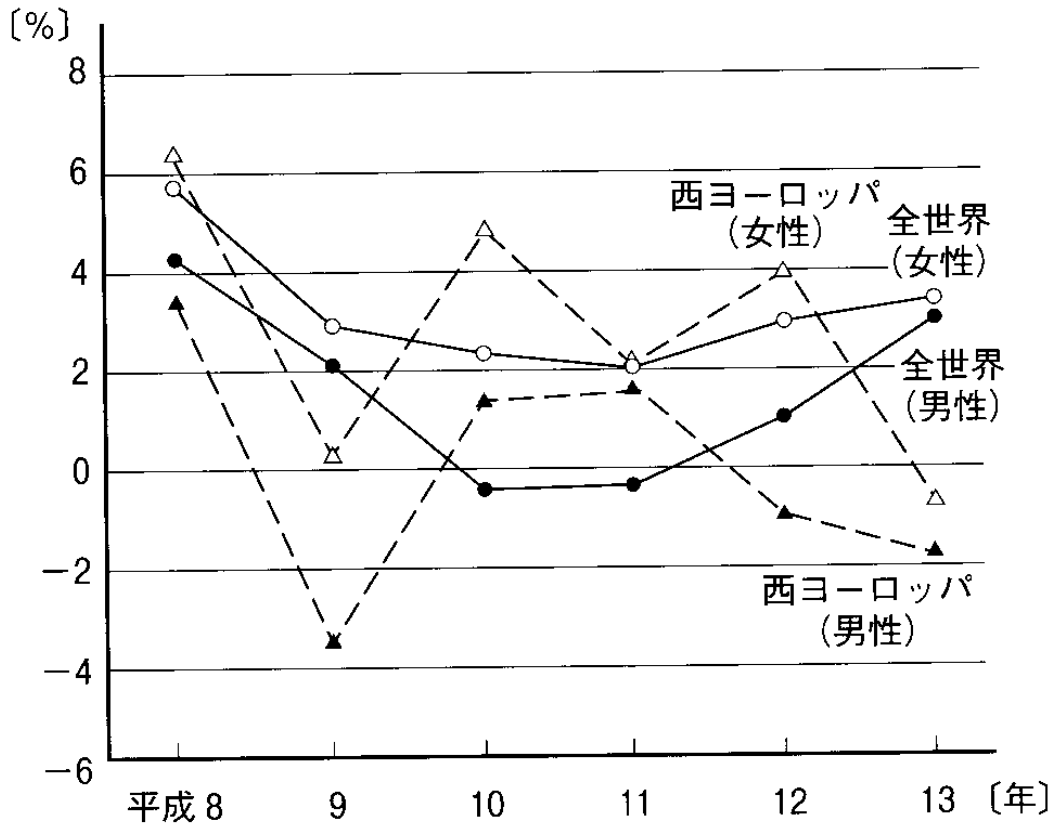


- 1 1992 年の第 1 期から 1994 年の第 4 期までの各期においては、設備投資と資本ストックはともに、前年同期より減少している。
- 2 1988 年の第 1 期から 1990 年の第 4 期までの各期においては、資本ストックは前年同期より増加しているものの、設備投資は必ずしも前年同期より増加しているわけではない。
- 3 1986 年の第 2 期と同年の第 3 期を比較した場合、資本ストックは第 3 期のほうが大きく、設備投資は第 2 期のほうが大きい。
- 4 資本ストックの前年同期比が 5%未満である期は、設備投資の前年同期比がマイナスとなっている。
- 5 1987 年の第 1 期から第 4 期までの各期においては、設備投資は必ずしも前年同期より増加していないものの、資本ストックは前年同期より増加している。

【問8】 次の図から正しくいえるのはどれか。

【地上15年度】 422_12

全世界および西ヨーロッパにおける
男女別海外在留邦人数の対前年増加率の推移



- 1 全世界の男性の海外在留邦人数に占める西ヨーロッパの男性の海外在留邦人数の割合について見ると、平成13年は9年を下回っている。
- 2 平成7年における西ヨーロッパの女性の海外在留邦人数を指数100としたとき、12年の指数は120を上回っている。
- 3 平成8年から13年までの各年における全世界の海外在留邦人数について見ると、男性に対する女性の比率が最も小さいのは13年である。
- 4 平成9年から13年までのうち、全世界の男性の海外在留邦人数が最も多いのは13年であり、最も少ないのは10年である。
- 5 平成9年から13年までの各年における西ヨーロッパの海外在留邦人数について見ると、女性が前年に比べて減少した年は、男性も前年に比べて減少している。